

iU主催「スタンフォード式 生成AI活用リーダー育成講座ミニ」を2026年3月25, 26日にハイブリット形式で実施

iU(情報経営イノベーション専門職大学、東京都墨田区、学長:中村 伊知哉、<https://www.i-u.ac.jp>)は、米スタンフォード大学 d.school 客員教授でありイノベーション&AI スペシャリストのジェレミー・アトリー氏を招聘し、2026年3月25日と26日に「スタンフォード式 生成 AI 活用リーダー育成講座ミニ(スタンフォード式 生成 AI Bootcamp ミニ)」を、iU を会場とした対面形式とオンライン(Zoom)形式にてハイブリッド開催いたします。

本講座は、iU 単独主催の講座として開催することを決定いたしました。生成 AI と自動化ツールを活用して個人が生成 AI を「ツールとして使う」のではなく、「生成 AI を優秀なビジネスパートナーとして育成・共働するノウハウを身につける」こと、またそういったノウハウやスキルを持つ社員を増やし部署・部門での業務改革を推進できる人材を育成することを目的としています。現場のリーダーを中心にしながらマネジメントを担当されている方まで幅広い層を対象とします。

■背景：生成 AI 活用の機運と 12 月に日経 BP 社と開催した生成 AI BootCamp の参加者の声

iU は 2025 年 12 月 9 日, 10 日, 11 日, 19 日に講師としてスタンフォード大学 d.school 客員教授ジェレミー・アトリー氏を迎え、「スタンフォード式 生成 AI BootCamp」(今回の講座とは異なる内容)を日経 BP 社主催で iU を会場とし実施いたしました。30 社 38 名の受講者を集め、講座のアンケート結果は「満足率 97%、T2B(とても良かった、良かった)の評価が 81%」という高い評価を受けました。また受講者や受講企業からは「もっと多くの社員になるべく早くできれば今年度中に受けさせたい」というご要望もいただいております。

こうした皆様のご要望を受け、急遽以下の別講座を「スタンフォード式 生成AI活用リーダー育成講座ミニ」としてiU単独主催で開講することにいたしました。

今回実施する講座の推薦人で、前回の「スタンフォード式 生成AI BootCamp」に参加されたディップ株式会社代表取締役COO志立 正嗣様より、今回の講座開催に際して以下のお言葉をいただいております。

「12月にJeremyから受けた『スタンフォード式 生成AI BootCamp』では、実践もありながら、ビジネスの本質に対するAIの活用についてしっかり向き合える貴重な機会になりました。経営者が自ら経営の実践に生成AIを使いこなすかどうか、今後の圧倒的な差になってくる。このことをまざまざと体験させられました。今回、その個人向けの部分を抜き出した『スタンフォード式 生成AI活用リーダー育成講座ミニ』を企画されるということは素晴らしいことです。できるだけ多数の経営に関わる方が参加されることを期待しています。」

■ 講座概要

名称: スタンフォード式 生成 AI 活用リーダー育成講座ミニ

講座概要

日程: 2026年3月25日(水)~3月26日(木)

9:00~13:00 本講座

13:00~16:00 昼食+補講、ゲストスピーカー

16:00-18:00 懇親会(初日のみ)等

○ 1日目の講師:iU 江端 浩人教授、2日目の講師:ジェレミー・アトリー客員教授

- **会場**:iU 情報経営イノベーション専門職大学(東京都墨田区文花 1-18-13) および オンライン(Zoom)
- **受講料**:リアル受講 19.8 万円(税込)、オンライン Zoom 受講 9.9 万円 ※複数申込割引 10%
- **定員**:リアル 100 名、オンライン 300 名
(最少催行人数:リアルとオンライン合わせて 50 名[オンラインは 0.5 人換算])
- **主催**:iU

■お申し込みフォーム:

- <https://aibootcampmini2603.peatix.com>

<プログラム内容> ※プログラム内容は変更になることがあります

Day 1: 3月25日(水) 講師:江端教授

9:00 - 9:05 オープニング 主催者より挨拶、メンバー紹介

9:05 - 9:15 ジェレミー・アトリー客員教授の挨拶と2日間の学びの予告”Don't use AI, Work with it”(録画)

9:15 - 10:30 Part 1、生成 AI をツールでなく、自分のパートナーとして一緒に働くためのトレーニング

(ChatGPT Plus に\$20 の支払いが必要です) ※各勤務会社の設定により他者の GPT が利用できない場合は個人契約が必要です)

<休憩>

10:45 - 12:00 Part 2、生成 AI をツールでなく、自分のパートナーとして一緒に働くためのトレーニング

<休憩:昼食>

13:00 - 14:00 Day 1 Wrap-up および Q&A など<オンライン(Zoom)配信はここまで>

14:00 - 15:00 ゲストスピーカー(日本企業の生成 AI 活用事例:MIZKAN 渡邊氏/Office ITaBridge 代表(元ロート製薬)板橋氏

<休憩>

15:15 - 16:00 リアル受講者簡易自己紹介

16:00 - 場所移動(Cafe)にて、名刺交換、懇親会(軽食・飲料) - 18:00 終了

Day 2: 3月26日(木) 講師:スタンフォード D.School ジェレミー・アトリー客員教授

(英語同時通訳ソフト:ポケットク Sentio 使用、講座サポート:江端教授、矢追良太:42 Tokyo 他)

9:00 - 9:05 オープニング 主催者より挨拶、メンバー紹介

9:05 - 9:15 1日目の振り返りと2日目を迎えるにあたり(江端教授)

9:15 - 10:15 ①AI から狙い通りの成果を安定して引き出す力を身につける。プロンプトエンジニアリング+ツール紹介。効果的なプロンプト作成また既製ツールの連続的な活用事例を紹介。

<休憩>

10:30 - 11:45 ②業務における最適な活用用途の特定とワークフローの明文化。職場で最適な業務活用用途を発見し、カスタム GPT へのワークフロー統合を支援します。

<休憩>

12:00 - 13:00 ③ワークフローの自動化。ローコード/ノーコードツールを使い、反復作業を自動化する方法を紹介。ジェレミー・アトリー客員教授より Day 2 の総括。

<休憩>

13:00 - 14:00 昼食

14:00 - 15:00 江端教授より Day 2 総括および Q&A/受講アンケート記入など

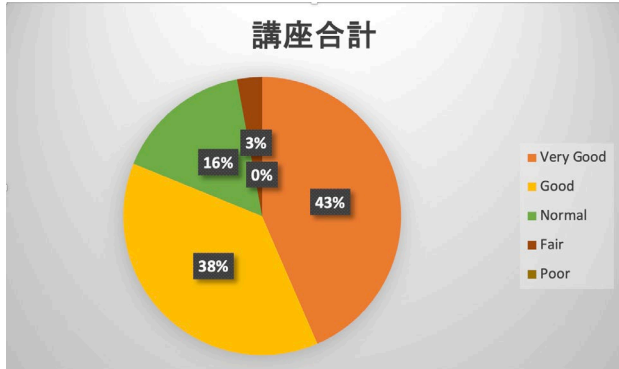
15:00 終了(リアル・オンライン)

補講・見逃し配信: やむを得ない理由で参加できなかった方や質問のある方、復習として視聴したい方のために以下の施策を検討しております。

- ・講座終了後のオンライン質問会: 2026年4月3日(金) 18:00-20:00 Zoom
- ・見逃し配信: 2026年4月3日(金)00:00-2026年4月12日(日)23:59

■ 12月に実施した別講座「スタンフォード式 生成 AI Bootcamp」アンケート結果

講座合計の評価:



Very Good(とても良い)が 43%

Good(良い)が 38%

Normal (普通)が 16%

Fair (あまり良くない) が 3%

Poor (良くない)が 0%

Fair の理由はテクニカル問題によるもの(会社の環境が他社 GPT を読み込めない設定、英語が早すぎるなども含む)

<受講者ポートフォリオ> 30 社、38 名

CEO レベル	3
CXO・本部長レベル	7
部長・課長レベル	11
主任・現場担当レベル	17
合計	38

<参考: 受講会社>

全国展開する大手ライフスタイル企業、大手総合商社 IT ソリューション企業、国内大手生活用品メーカー、国際的自動車部品専門メーカー、世界的な青果・食品ブランド企業、マーケティングテクノロジー領域の上場企業、東証プライム上場の住宅メンテナンス企業、大手物流企業の子会社、食品宅配を中心とした買物支援サービス企業、総合物流企業、株式会社地区宅便、全国展開する宅配・物流サービス企業、世界的な日本の食品企業、デジタルマーケティング支援のコンサル企業、東証プライム上場の人材・DX サービス企業、世界トップクラスの建設機械メーカー、専門商社・加工メーカー、日本を代表する総合電機・テクノロジー企業、日本の発酵食品のグローバルメーカー、全国展開する大手コンビニチェーン、世界展開する総合物流大手、学生数全国トップクラスの総合私立大学、財務・会計の専門コンサル企業、大手通信系エンタメ・ライブ企業、デザイン教育を行う専門企業、総合商社系の大手 IT 企業、世界的タイヤメーカー中核 IT 企業、大手通信グループ IT サービス企業、全国展開する専門店チェーン、公認会計士資格の大手専門教育機関、日本最大級の総合商社

【受講者の声】

- AI を同僚だと認識することの効果を感じました。プロンプトを共有頂き、実務に直接活かせるイメージがつかしました。
 - **マーケティングテクノロジー領域の上場企業 経営企画部長**
- アウトプットではなくてインプットを修正するという話が、生成 AI と向き合う上で一番大事な心構えだと思った。作成した

Digital Co worker を実務レベルで日常的に使えるように、ブラッシュアップしていきたい。

- デジタルマーケティング支援コンサル企業 ディレクター

- 今回のブートキャンプを通じて得た学びは、私の仕事における「考え方・行動の仕方」、そして「人やチームとの向き合い方」に大きな問いを投げかけ、深く変化をもたらしてくれました。現在は、これらの原則をどのように業務設計へと落とし込むべきか、少しずつ考え始めているところです。単発の取り組みとして終わるのではなく、「実験と学習に基づく継続的な取り組み」として進めていきたいと考えています。実践へ移していく中で、どのような発見が生まれていくのか、とても楽しみにしています。また、私個人だけでなく、私たちの組織に対しても力になってくださるという、寛大なお申し出に心より感謝いたします。ぜひ今後も継続して連絡を取り合いながら、実装プロセスの中で得られる気づきや学びを共有させていただければと思います。

- マーケティングテクノロジー領域の上場企業 人事部長

- 本日もありがとうございました。そして、私に“新しい相棒”を紹介して下さったこと、心より感謝申し上げます。感覚としては、私の母校で寝る間を惜しんで勉強し、常に脳が覚醒していたあの頃に戻ったような気分です。昨夜も疲れていたはずなのに、頭が冴えてしまって結局あまり眠れず…（教えていただいた内容を基に、さっそく Chappie との“共同生活”を始めております。）
この衝撃的な出会いを、つい誰かに自慢したくなってしまい、あちこちで風潮しております。会社へのフィードバックはもちろんですが、特に悩める女性たちにこそ、この可能性を伝えたいと強く思っています。（きっと、みんなすぐに“もう一人の私”を欲しがるはずです！）

- 世界的自動車パーツメーカー、執行役員

- スタンフォード式 AI Bootcamp のご報告をいただき、ありがとうございます。弊社〇〇からも報告を受けており、非常に勉強になったと申しておりました。今回企画されている「AI Bootcamp Mini」についても、ぜひ詳細を伺いたく存じます。情報がまとまりましたら、ご案内いただけますと幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

- CEO

■ 講師紹介



ジェレミー・アトリー氏(スタンフォード大学 d.school 客員教授)

イノベーション・創造性・起業家精神の分野で世界的に高い評価を受ける専門家。著書『Ideaflow』は Thinkers50「トップ・イノベーション著作」に選出。アトリー氏は、スタンフォード大学で「最も人気のある教授」にも選ばれ、「AI とクリエイティビティの融合によって組織変革を導くエキスパート」として注目されている。

<https://www.jeremyutley.design/>

<https://online.stanford.edu/instructors/jeremy-utley>



江端 浩人氏(iU 教授、江端 浩人事務所代表)

スタンフォード MBA(経営学修士)取得、伊藤忠商事、日本コカ・コーラ、日本マイクロソフト、DeNA などで要職を歴任。DX 人材育成の第一人者として多くの知見を保有。2025 年 7 月 22 日には自身の授業内でフジテレビジョン清水賢治社長と実業家堀江貴文氏の対談を実現。著書に『マーケティング視点の DX』(日経 BP)など。

<https://hirotoebata.jp/>

■ FAQ よくある質問

Q. 講義は英語でしょうか？

A. Day 1 江端教授の講演は日本語で行います。Day 2 アトリー氏の講義は英語で、米国から Zoom でご登壇いただき中継いたします。会場では同時翻訳機能を用意し、日本人スタッフが質問に対応します。

なお翻訳はポケットク Sentio を使用予定です。会場の大型モニターに翻訳された日本語を表示し、Zoom の方も視聴できます。

英語で話すスピードと同時翻訳ツールの性能に関しては、10 月に実施した Nikkei ビジネスライブのアーカイブ配信をご覧ください。

https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00584/091600058/?n_cid=nbpnb_sisls_bootcamp

Q. 受講にはどのような機材が必要でしょうか？

A. ChatGPT Plus(月額\$20)が動くパソコンが必要です。ご自身で持参ください。Wi-Fi と電源は、会場に用意いたします。勤務先のパソコンが他者の GPT が読み込めない設定になっている場合がございますので、その場合はブロックされていないパソコンをご用意ください。

※ 検証結果では他の生成 AI モデルでも実施可能ですが、受講時も必ず有効とは限りません。

※ 他者の GPT が読み込めるかは自社の情報システム部などにお問い合わせください。

Q. 受講にあたってのサポートはありますか？

A. 会場での受講者に関しましては江端教授と 42Tokyo CTO の矢追良太氏、他サポートスタッフが毎回サポートに入ります。Zoom 参加の方のサポートはございません。

Q. 講座のお申し込みと支払いはどのような手続きになりますか？

A. 受付は Peatix のサイトでお申し込みください。お申し込みいただいた後、メールで請求書をお送りしますので期限内に受講料金を iU の銀行口座にお振り込みください。

Q. 本講座を、社内研修として実施することは可能でしょうか？

A. 可能ですが、ご相談ください。

<大学概要>

■大学・学部学科名

- ・大学名：「情報経営イノベーション専門職大学」 ※愛称「iU（あいゆう）」
- ・学部名：情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

起業率全国1位（iU独自調査）、起業数は全国8位（経済産業省調べ）の、在学中に学生が起業に挑戦する大学。ICT・ビジネス・グローバルな視点について学び、新しい時代を創る人材を育成。さらに必修科目として約4か月間の臨地実務実習も経験し、将来の起業や就職を見据えたキャリアビジョンの具現化につなげている。

iUホームページ：<https://www.i-u.ac.jp/>

■学長

中村伊知哉（なかむらいちや）



京都大学研究員、東京大学研究員、デジタル政策財団理事長、CiP協議会理事長、国際公共経済学会会長、日本eスポーツ連合特別顧問、理化学研究所コーディネーターなどを兼務。

1984年、ロックバンド「少年ナイフ」のディレクターを経て郵政省入省。MITメディアラボ客員教授、スタンフォード日本センター研究所長、慶應義塾大学教授を経て、2020年4月よりiU学長。

内閣官房、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省などの参与・委員を歴任。

著書に『新版 超ヒマ社会をつくる—アフターコロナはネコの時代—』（ヨシモトブックス）、『コンテンツと国家戦略』（角川EPUB選書）など多数。

1961年生まれ。京都大学経済学部卒、大阪大学博士課程単位取得退学。博士（政策・メディア）。

情報と経営でイノベーションを起こす人材を育成する、デジタルとビジネスの国際大学。

AI、ソーシャル、Web3、eスポーツ、デザイン思考、メディア、VR/AR、マーケティング、オタク、メタバース、セキュリティ……。

プロジェクト授業、4ヶ月の臨地実務実習、そして恐らく世界初の「全員起業」。

全員が起業に成功すれば就職率がゼロになるので、目標就職率ゼロ。起業数45以上、起業増加率日本一。

だが多くは失敗する。失敗から学ぶ「失敗大学」。コンピテンシー：行動偏差値がトップ級。結果、2期生の就職率99.1%。

連携企業700社以上、客員教員1,000人以上。学生より教授のほうが多い、プロのコミュニティの中で学ぶ大学。

研究所「B Lab」をベースとして地域DX、超校歌、超人スポーツ、ニューロダイバーシティ等100以上のプロジェクトが走っている。

2025年度には、eスポーツの学習・活動・インターン・起業を行う正課「eスポーツ」も設ける。

入学式、卒業式などイベントは学生が企画・運営。自分でつくる大学。デジタル1st。日本初のPC・ネットあり入試を導入。

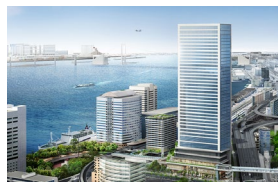
理念は「変化を楽しみ、自ら学び、革新を創造する」。

それ、おもしろい？ それ、あたらしい？

■所在地

・墨田キャンパス：東京都墨田区文花1-18-13

・サテライトオフィス：東京都港区海岸1-7-1 東京ポートシティ竹芝 オフィスタワー8階



左：墨田キャンパス
右：サテライトオフィス

・学生数：655名 ・基幹教員数：30名

■教育理念

「変化を楽しみ、自ら学び、革新を創造する。」

■学びの特色

「ICT」「ビジネス」「グローバル」この3つが学びの柱

①アプリ設計・開発、データサイエンスなどの技術を修得する【ICT】

急速に進化する世界で自身のアイデアを形にし、世界へ発信する力となるデジタル技術を身に付ける
プログラミングやデータ処理、ネットワークといった基礎技術から、AI、データサイエンスなどの最新領域をカバーするカリキュラムを展開

②組織管理やマーケティング、会計・財務などを学ぶ【ビジネス】

ビジネスの仕組みを理解し、マーケティング、マネジメント、財務、法務などの専門知識を学習
さらに、必修科目「イノベーションプロジェクト」を通じて、課題発見からビジネスプランの立案までを繰り返し学ぶことで、実践力を身に付ける

③国際感覚や語学力を自分のものにする【グローバル】

卒業後に現場で生きるビジネス英語を中心に、異文化理解、国際情報やグローバルビジネスを学び、ボーダーレスな共創・活躍を実現するための多角的な国際感覚を養い、英語でのビジネスピッチが行えるまでを学び、実社会で活躍できる人材を育成

現場で学び、起業で挑む。600時間の実習×全員起業プログラム

- ・臨地実務実習とプロジェクト実践演習：1人600時間の臨地実務実習、実在するサービスの事業展開やリアルな社会課題の解決などに取り組むプロジェクト実践演習を実施
- ・全員起業：全員が在学中に起業に挑戦。必修科目「イノベーションプロジェクト」を通じてリアルなビジネスの立ち上げを経験し、社会で即戦力となる力を育成。希望者には事業化支援・資金提供・登記サポートも完備。

■育成人材像

- ・ICTを活用する様々な業界・団体において課題を解決し、新たな商品・サービスやビジネスを生み出すことのできる人材
- ・ICTを活用し新たな商品・サービスやビジネスを生み出すことで、国際社会と地域社会の産業発展に貢献する起業家

【本リリースに関するお問い合わせ先】

iU 情報経営イノベーション専門職大学 TEL : 03-5655-1555 E-mail : info@i-u.ac.jp